

公益財団法人
うなんコミュニティ財団
アニュアルレポート 2024

UNNAN COMMUNITY FOUNDATION
ANNUAL REPORT 2024



ご挨拶

平素より「うなんコミュニティ財団」の活動に温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。市民のみならずの小さなつばやきに耳を傾け、「支え合い、市民が作る市民のための財団」として、誰もが地域づくりに関われる仕組みを育ててまいりました。これからも多様な声を力に変え、共に歩み続けます。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。 代表理事 郷原剛志



役員・事務局メンバー

評議員：三瓶裕美・高岡裕司・帯刀一美・森山史朗
理事：石原尚実・上田航平・郷原剛志(代表理事)・小林直子・杉原雅也・中澤ちひろ
監事：足立尚吾・濱田達雄
事務局：石原尚実(事務局長)・木村和子・平井千夏・マラー詩乃・村田明日香・守岡利栄 (五十音順)

弊財団について

コミュニティ財団は、地域の小さな声を大切に、地域に根ざした資源循環を行うことで、地域の力を引き出す諸課題解決・価値創造の仕組みです。弊財団は2020年4月に642人の志金300万円をもとに設立し、地域の将来を左右するような大きな課題からより日常的で身近な小さな課題まで、市民同士で支え合いながら市民の自らの手で自在に解決していける未来を目指して活動しています。

目的

地域のあらゆる主体を結びつける仕組みとなることで資源の循環を通じて**社会課題の解決・改善及び地域の価値創造の取り組みのための基盤充実**を図ります。また、その営みを通じて、誰もが社会課題の解決・改善及び地域の価値創造に関わることができ、地域のあらゆる主体が公益を担いあいながら、当事者の意識と存在を大切に**安心して持続可能な地域社会の形成に寄与**することを目的としています。

人口減少、家族構成やライフスタイルの変化等により、地域で支え合ってきたことが、従来の形では困難になりつつあります。弊財団では、既存制度や事業では支援が難しい領域、まだ課題として認識されていない領域の課題を可視化し、資源を循環させる仕組みになることで、誰もがやりたいことを実現できる持続可能な地域づくりを目指しています。

雲南市の一般世帯数及び家族構成の推移 (2020年国勢調査より)



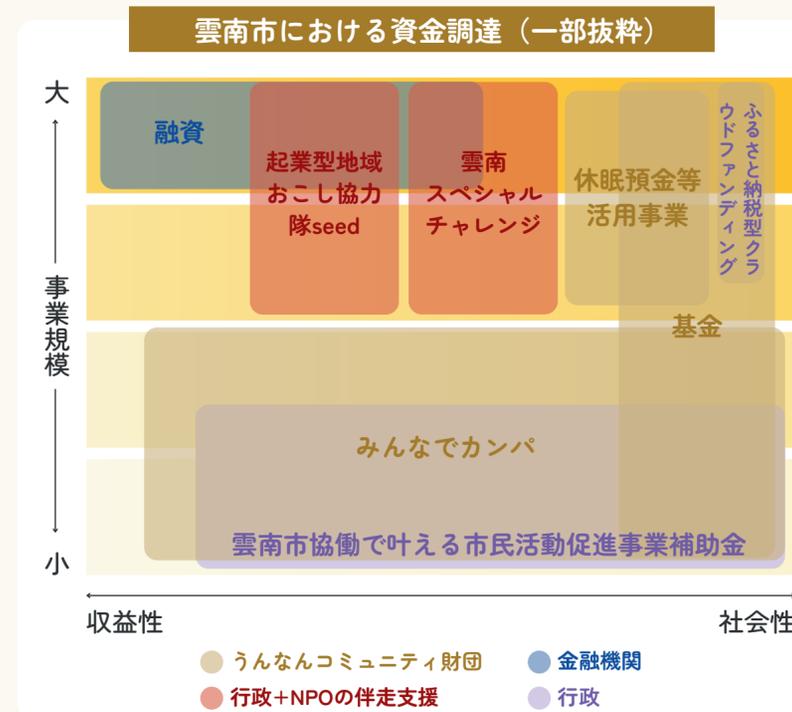
事業

- 事業指定助成事業 (地域密着型クラウドファンディング)
- 課題共有会議事業
- 基金の設置運営事業 など

他団体との連携

弊財団は、社会課題を解決するために、人・財・情報などの資源を繋ぎ続け「循環」をもたらすこと、またその循環を通じて、誰もが課題解決や価値創造の取り組みに参画できる持続可能な地域づくりに寄与したいと考え設立しました。社会課題においては、特に制度と制度の狭間にある「潜在的な課題」に取り組むことで、課題の当事者が孤立することのない安心した社会形成を目指しています。

雲南市では潜在的な課題に対して既に行政支援が行われている領域もあり、それらを提供・支援している団体との連携が不可欠です。下図の通り、弊財団での支援範囲は広域ですが、既存サービス等と重複する場合は積極的に連携団体に繋いでいます。



用語解説
雲南スペシャルチャレンジ
雲南市による中学生から若者世代のチャレンジを応援する仕組みのひとつ。スペシャレスポーターからのご寄附で、「ジュニア」「ユース」「ホープ」の3つのチャレンジについて、資金及び伴走の支援を提供します。

起業型地域おこし協力隊seed
雲南市による若者のチャレンジを応援する仕組みのひとつ。地域おこし協力隊制度による最長3年間の活動資金を“投資”と見立て、地域外からの起業家と雲南の事業者との相乗効果による価値創造を支援します。

ふるさと納税型クラウドファンディング
地域の課題や取り組みに対して、ふるさと納税で応援できる仕組みです。自治体が承認したプロジェクトのみ、ふるさと納税で寄付募集をすることができます。



ごみ削減勉強会・コンポスト作成ワークショップの様子

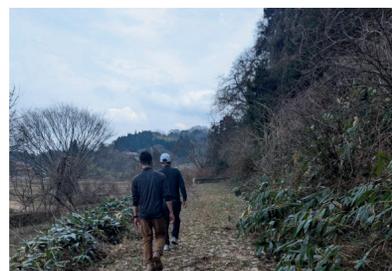
地域自主組織や企業等、市内50団体と連携し開催し、延969人にご参加いただきました。(2022年度~2023年度)



企業見学の様子

フルタイムの働き方が困難な方や家から出にくい方と、中間的就労や柔軟な働き方を進める市内企業等への繋がりができるよう、支援団体同士での意見交換や企業見学等を行っています。(2023年度~)

不動産の利活用の他団体連携



個人所有の山林見学の様子

近年、不動産利活用や不動産寄付のご相談を複数お寄せいただくようになり、田畑及び山林、空き家等にお伺いさせていただいています。2025年度は地域活性化センター様の助成金を活用し、士業の方々と専門家ネットワーク構築等も進めることで、不動産の利活用を推進していきます。

不動産の利活用については、地元にお住いの方々と連携なしには活用が困難です。今後は行政とも連携し、資源が実際に循環する仕組みづくりを進めていきたいと考えております。既に取り組んでおられる団体の皆さまやご関心のある方は、ぜひ一緒でしたら幸いです。

目次

- 02 ご挨拶・弊財団について・他団体との連携
- 04 設立5年の成果
- 06 みんなでカンパ(クラウドファンディング)
- 08 2021年度休眠預金等活用事業
- 11 U25基金
- 13 水災害基金・調査研究事業
- 14 情報集約発信事業・会計報告
- 15 寄付募集

設立5年の成果

2020年4月に642人からの志金で設立し、2025年4月で丸5年を迎えました。5年間で雲南にどのような成果・変化があったのか、数値とエピソードをご紹介します。



人・団体

寄付者数

延 2,893 名

クラウドファンディングプロジェクトへのご寄付	・・・	延 1,808 名
基金へのご寄付	・・・	延 1,028 名
コロナ禍でのマスク・物品等のご寄付	・・・	延 57 名

助成等支援件数（団体数）

延 137 件

クラウドファンディングプロジェクトの助成（ふるさと納税活用を含む）	・・・	28 件
基金等からの助成（コンポスト助成を含む）	・・・	93 件
資金（助成）以外の支援	・・・	16 件

地域

受益者数

約 17,500 名

クラウドファンディングプロジェクトでの受益者	・・・	約 13,000 名
調査研究事業での受益者	・・・	約 2,700 名
基金での受益者	・・・	約 1,800 名



dustbox

クラウドファンディングで資金を募り空き家を改修。チャレンジショップを6事業者が活用。出店範囲を拡大した事業者の方もいます。



フクミ

クラウドファンディングで資金を募り、地域や世界の課題と向き合う映画を継続して上映。近隣店舗への来客や木次線利用促進にも繋がっています。

志金

支援総額

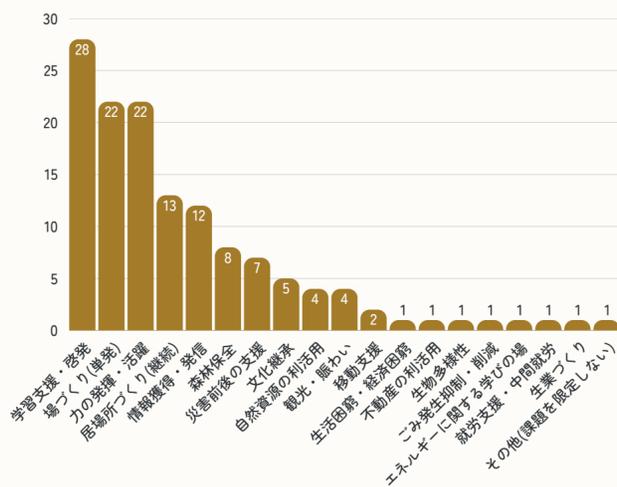
約 9,500 万円

事業指定助成（クラウドファンディング） （ふるさと納税活用を含む）	約 1,270 万円
基金等からの助成 （コンポスト助成を含む）	約 8,300 万円



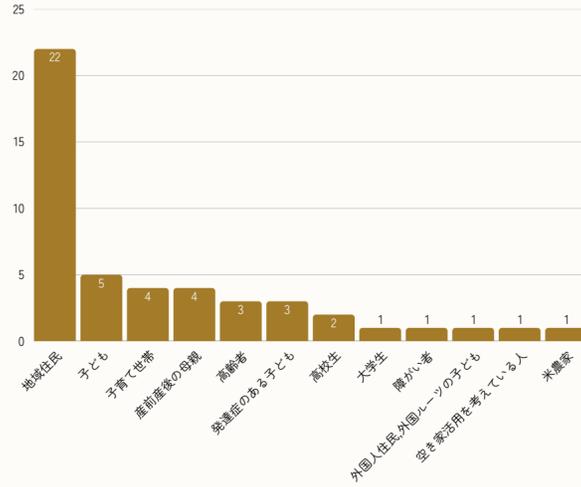
プロジェクトで解決したい課題・価値創造の分野

(n=48) ※コンポスト助成を除く



プロジェクトの主要対象者（課題の当事者等）

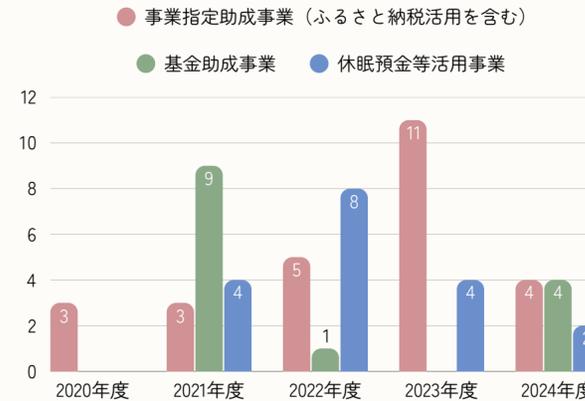
(n=48) ※コンポスト助成を除く



実施内容の「学習支援・啓発」及び対象者に「地域住民」が多い背景には、当事者を孤立させないための啓発活動として受益者を広く「地域住民」とするプロジェクトが複数あるためです。また、取り扱う分野が遺産保護や観光等のために受益者を広く「地域住民」としているプロジェクトもあります。

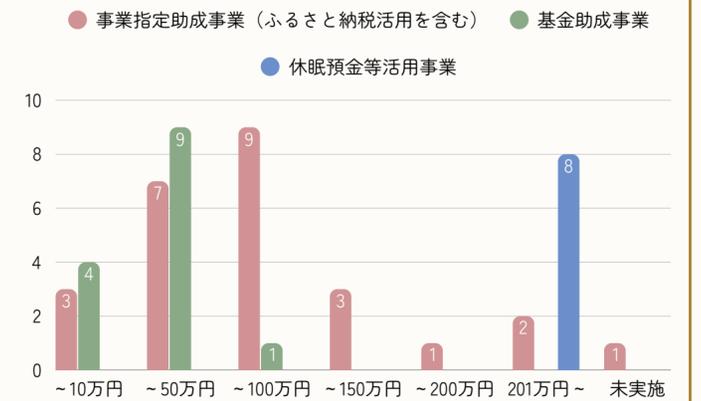
年度ごとの助成件数と事業の種類

(n=48) ※コンポスト助成を除く



プロジェクトの実施規模（金額）と事業の種類

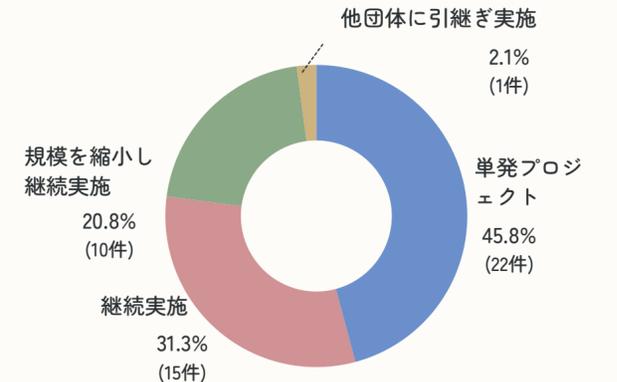
(n=48) ※コンポスト助成を除く



クラウドファンディングは、10万円以下の少額のプロジェクトから200万円以上の寄付募集を実施したプロジェクトまで様々です。休眠預金等活用事業は、地域の孤立などの課題解決に向けた中長期的な計画に基づく事業への助成であり、事業規模が大きい傾向があります。なお、2024年度末時点で未実施のプロジェクトは、2025年度に実施します。

プロジェクトのその後

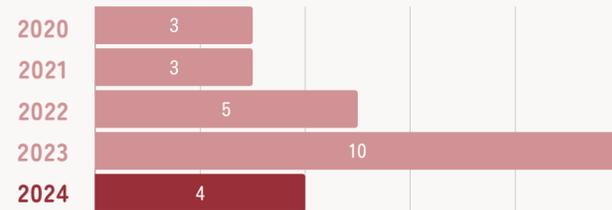
一過性ではないプロジェクトの場合、資金調達により途切れることなく支援を届ける活動を継続されています。また、社会課題の解決という性質上、利用者の方から直接対価をいただくことが難しい事業では、企業協賛等のパートナーシップにより持続可能なプロジェクト運営に努める団体もあります。



みんなでカンパ

地域密着型クラウドファンディング

実施件数の推移



プロジェクトの実現には、想いのある実行者と資金の両方が必要です。「みんなでカンパ」は、誰もが地域の中でチャレンジができる・応援できる仕組みとして、発案されたプロジェクトに対して支援者がお金を寄付する地域密着型のクラウドファンディングです。

弊財団では、市民のプランを発表し仲間や資金を集める場の企画運営（プラン共有発表会）、プランや活動に関する相談支援、寄付募集に係る支援、情報発信に係るサポート、同じテーマで活動されている団体のご紹介、助成金のご紹介等をさせていただきます。

特徴

地域のために活動をしたい・そのための資金を集めたい方が最初の一步を踏み出しやすいよう、申請に必要な条件を最低限に絞っています。雲南市内の活動や雲南市民に資する活動内容であれば、どなたでも挑戦できます。また、雲南市内でやってみたい「夢」や「課題解決」を市民に伝えることで、応援の声が直接届き、挑戦へのモチベーションが高まります。



目指す状態

- ▶ プラン共有発表会を通じて地域の主体が繋がっている
- ▶ 諸資源（人・もの・資金・情報）が循環する基盤が構築されている
- ▶ プラン共有発表会后、繋がった人同士で応援し合うことができている

地域の活動に寄付したい方、地域のための活動資金を集めたい方、まずはお気軽にご相談ください！

みんなでカンパについて詳しくは右のQRコードから ▶ ▶ ▶



01 格差なく、子どもたちの可能性を発見するデジタルラボ



一般社団法人エンター

目的 子どもたちが先端のデジタル技術に触れることができる居場所を無料で提供することで、安心して夢中になることを選択肢や機会を増やす

助成後の活動結果 ・ワークショップ実施：29回（3Dプリンターを使ってみよう、オリジナルの漫画を作ろう、レゴフィギュアを作ろう、AIを動かそう、Tシャツ作り、地元高校生と協働したレジづくり、自助具の作成等）
・年間施設利用者：243名（子ども延べ約1,000名）

活動の成果 利用者から「ここは自分たちの秘密の場所」「ここは俺たちが出会った場所」という声があり、子どもにとっての居場所的役割、利用者同士の交流のきっかけになっている。

今後の予定 ・出口戦略に向けた一部有料化等の利益の算段や、企業からの寄付を検討中
・格差解消に向けては個人利用に加え、学校単位での協働や連携を検討中

寄付者 33 名

寄付総額 235,000 円

ホームページ



※2023年3月分を含む

02 雲南INakaBOUND



権智賢

目的 外国人視点から、雲南の暮らしの良さを発信（コンテンツを制作）することで、インバウンドの増加に繋げる

助成後の活動結果 発信媒体とコンテンツ件数
・Instagram @hyongx2 / リール36件
・note（ブログ）https://note.com/hyongx2 記事17件

活動の成果 コンテンツ閲覧数
・Instagram：1件あたり1000～6000回
・note：641回

今後の予定 ・Instagram漫画制作：@kiss.chu（7月～開始予定）
・YouTubeチャンネルの運用（運用時期検討中）
アカウント：
https://www.youtube.com/@hyongx2
・ウェブサイト設計中

寄付者 47 名

寄付総額 325,000 円



※2023年3月分を含む

03 烏帽子かけハイキング道受け継ぎプロジェクト



希少生物「ギフチョウ」の保護活動と下熊谷地域遺産を守る会

目的 希少生物の保護及び下熊谷地内烏帽子かけ周辺の散策道の整備をすることで、地域遺産を受け継いでいく

助成後の活動結果 ・ミヤマアオイの育成場所の印
・ギフチョウ・カタクリの採取禁止看板の設置
・物置屋根修繕

活動の成果 インタビューチラシの配布により、地域内での活動の周知につながる

今後の予定 ・松林寺前の案内看板の更新
・ミヤマアオイの保護・育成、物置屋根の修繕

寄付者 10 名

寄付総額 55,100 円

現在、「希少生物「ギフチョウ」の保護活動と下熊谷地域遺産を守る会」さんは一緒に活動して下さる方や協力者を募集中です！興味のある方は弊財団までお気軽にお問い合わせください。

04 雲南ミュージックフェス立ち上げプロジェクト



雲南ミュージックフェス企画・運営チーム

目的 音楽が好きなが多い雲南で、賑わいと世代間交流の場を提供し地域の人を元気にする

助成後の活動結果 雲南ミュージックフェスの企画・運営
・来場者：延べ300名
・参加費：計18,900円
・出演数：14組(カラオケ大会9組、ステージ5組)
・出店数：17件

活動の成果 地域の方々から「楽しいイベントの立ち上げをありがとう」の声、出演者から「次年度以降も開催してほしい」の声があった。スタッフ同士のつながりができた。

寄付者 17 名

寄付総額 112,100 円

今後の予定 雲南ミュージックフェス2025年の企画・運営

休眠預金等活用事業



「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき、休眠預金等を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まりました。

弊財団は南砺幸せ未来基金、東近江三方よし基金とコンソーシアムを組み資金分配団体(*)として採択いただき、テーマ「社会的困難者を支えるローカルアクション」に取り組む市内4事業に助成をさせていただきました。また、コンソーシアム内では各団体の学び合いや事業を通じた知の構造化にも取り組みました。

東近江・南砺・雲南コンソーシアム

公益財団法人
南砺幸せ未来基金



公益財団法人
東近江三方よし基金



公益財団法人
うなんコミュニティ財団

3地域のコミュニティ財団で構成しています。それぞれの地域資源を活かし、多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組むとともに、市民自らが応援する仕組みを構築することで、「未来資本」を創出する取り組みを進めています。

目指すこと

誰もが他人のことを自分ごとと思い、地域で安心して暮らせる持続可能な全世代型地域共生社会の実現

地域における複雑化した社会課題を解決するために、人と人、人と地域をつなぎ、社会関係資本の拡張を目指し、下記3つの柱に基づいた活動を2021年度から4年間、助成及び支援をさせていただきました。

- (1) 社会的困難者とつながるための多様なアクセス環境の整備
- (2) 社会的困難者とつながり続けるための多様なサポート体制の構築
- (3) 社会的困難者と地域をつなげるための協働の仕組みづくり

この取り組みを通じて、市域レベルでの知の構造化も図り、持続可能な地域づくりを推進しました。



休眠預金等活用事業報告会の様子



コンソーシアム報告書
(2021~2024年度)

用語解説

- ・資金分配団体：休眠預金等に係る資金を原資として、実行団体に対し助成等を行う団体
- ・実行団体：民間公益活動を行う団体
- ・直接対象者：事業で対象とする人
- ・結果：活動をしたことで直接生じた結果
- ・成果：結果により生じた直接対象者や地域の変化や状態、学び、その他効果
- ・中間的就労：一般的には就労訓練事業のことで、無償ボランティアであることが多いです。地域の事業者の方々と連携し、短時間や本人の得意を活かした就労機会の形成・調整等を行っています。

01 高齢者の移動支援：走れ「よりそい号」

躍動と安らぎの里づくり鍋山

事業期間 2022年4月～2025年2月

助成額 7,980,000 円

事業の直接対象者

65歳以上の鍋山地区住民（特に免許のない人）

事業概要

65歳以上の移動に困っている方に対し、移動の不便さから外出困難になる現状を変えるため、時間に縛られずに短距離の移動もサポートできる柔軟な有償運送を提供。主に以下を実施。

- 専任職員の配置、資格取得
- 有償運送システムの運用、地区内移動支援の実施
- 広報やイベント時の案内、訪問支援等による周知
- 体験会等のイベントの実施



事後評価報告書



結果

よりそい号の運営体制が構築されている

- マニュアルができています
- 運転者の資格を取得している人数 9 名

鍋山地区内のほぼすべての対象者が本有償運送システムの利用方法を知っている

- 地区内でのチラシ・ポスターを設置した施設の数 44 箇所
- 個別訪問した高齢者等の件数 110 名

事業への参加のための移動手段として本有償運送システムが組み込まれている

- 利用目的・行先を記したキャンペーンや案内数 3 回
- 行先 13 箇所
交流センター、ちよんてごカフェ、躍動サロン、郵便局、深谷温泉、美容院、友人宅、バス停、禅定寺、大蔵神社、選挙、お菓子屋、地域商店

他地区へ情報提供ができています

- 情報提供した地区数 30 地区

※一部抜粋

成果

鍋山地区内のほぼすべての対象者が本有償運送システムの利用方法を知っている

- 利用登録者数 72 名
 - 延べ利用者数（3年） 1,172 名
- ※令和4年～令和7年2月24日までの延利用回数：1204回

直接対象者の生活の楽しみが増えている状態になる

- よりそい号を使ったことにより増えた暮らしの楽しみ（免許の有無別、n=13、複数回答）



- よりそい号があることで起こった自身の変化（免許の有無別、n=14、複数回答）



※一部抜粋

波及効果など

- ・戸別訪問に行くと、高齢者さんが「あなたと話をすると元気になるよ」とたくさん話をしてくださる。個人々人との密なコミュニケーションが、移動のみならず困ったときなどに「あの人に相談しよう」ということに繋がっている。
- ・よりそい号利用者から「地域で気になっている高齢者がいるのだけれど...」という声を拾い、職員の訪問に繋がった。

素敵なエピソード

家にこもりがちになられていた方がよりそい号を利用して地域サロンに参加され、数十年ぶりにご友人と再会されました。そしてその後、よりそい号を利用して、再会されたご友人のお宅にお出かけをされるようになりました。

躍動と安らぎの
里づくり鍋山
Facebookページ



02 生活不活発病を防ぐ食の見守りネットワーク

あそびばキッチンコンソーシアム

事業期間 2022年4月～2025年2月

助成額 10,942,345 円

事業の直接対象者

雲南市・奥出雲町（特に温泉地区と三新塔地区）の高齢者とフレイル予防を支援する人・団体



事業概要

高齢者の地域における交流機会を増やす活動を地域団体や多様な人材と協働して行う。また、地域内に潜在する生活不活発病やその予備軍の発見を移動販売等の機会を通じて行う。これらの施策により、雲南市・奥出雲町の高齢者が地域で孤立せず、生きがいや楽しみを感じながら安心して暮らせる地域づくりに寄与するために、主に以下を実施。

- 対象者同士や専門家等の交流機会づくり、ニーズ把握
- 対象者の活動場所や機会の開拓、サポート

結果

高齢者の健康や食を支える多様な人材が交流する場や協働活動が生まれている

- 交流会等の開催数 22 件
- 交流会等の参加者数 延 298 名
- 協働活動件数 23 件
- 協働した団体数 54 団体

高齢者自身が健康推進（虚弱予防）の担い手として活動する

- 対象者の生きがい創出のコーディネート件数 . . . 8 件
- 生きがい創出の地域活動を行った対象者の人数 . 11 名

潜在的な虚弱が懸念される直接対象者と繋がり、いきがい創出活動が行えているか

- 「生きがい資源見える化シート」の数 4 件
- 生きがい創出活動を行った人数 4 名

※一部抜粋

成果

多様な人材が協働する場や活動が生まれ、専門職や医療関係者だけでなく、多様な市民による(インフォーマルな)高齢者支援のアウトリーチモデルが創出し始めている

- 協働活動の数と活動者数（温泉・三新塔） 6 回
60 名

フレイルが懸念された高齢者が地域の担い手となり、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らす人が増えている

- フレイルが懸念された高齢者が、活動支援グループ（専門職や医療、地域のインフォーマルな活動者、地域自主組織などの団体等）とつながった人数 6 名

要介護の認定を受けた高齢者が、身体が虚弱化しても、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らせる人が増えている

- つながりができ顕在化した直接対象者の人数 6 名

※一部抜粋

波及効果など

- これまでの「やってもらう」関係性から、「一緒に場作りを行う」「どう続けるかを一緒に考える」関係性に進化していると感じる。場作りの意味を一緒に考えられるようになった。
- 160 回以上に渡り実施されている移動販売の現場では、利用者のニーズに応えるために今もなお日々の工夫が繰り返されている。販売スタッフインタビューにより、8 分類 25 項目に及ぶ「ちょっとしたノウハウ」が共有されていることが分かった。

「あそびば食堂」参加者の声

『あそびば食堂』で他の住民との交流機会を通じて新たな友人を得て、食の楽しみや交流の重要性を再認識しました。



あそびばキッチン Facebook

基金の設置運営事業

Unnan-U25基金



財団の設立以降、地域密着型クラウドファンディングや休眠預金等活用事業を通じて、子どもや若者の応援を実施する団体の活動支援をさせていただきました。その中で「生きにくさ」や「不安・孤独」を抱える子どもの支援が急務と考え、概ね25歳以下の子どもや若者が不安を抱えず自分らしく生き生きと暮らすことができる雲南を目指し、基金を設置し、匿名希望の方から500万円もの志金をお預かりいたしました。

2024年度は、既存の制度では十分に支援することが難しい領域の課題に取り組む3つの事業に総額150万円を助成させていただきました。

01 発達症の子どもたちの可能性を高める

一般社団法人みかた麴杜

事業期間 2024年～2025年度

助成額 900,000 円

事業の直接対象者

発達症等があり通常の高校では学びづらい高校生・若者

事業概要

直接対象者一人ひとりに寄り添って話を聞いたり、アセスメントをしていくことで、本人にふさわしい学びの支援や提案、環境づくりを実施。

【主な事業】

- 相談受付、提案、他機関との連携
- 通信制高校のサポート校で支援
- 放課後等デイサービスでの療育、活動プログラムの実施
- 啓発活動
- 雲南市内で発達症に関する専門性の高い人材の育成

エピソード紹介

知的障害の特別支援学級に在籍している子どもの保護者から、「『高校は養護学校高等部』と設定され、疑問に思っていました。他の選択肢を知らず・・・」と相談を受けました。そこで、子どもの知的活動を総合的に評価し、教育・指導に直結させる心理アセスメント1を実施したところ、限局性学習症傾向があることが判明しました。今後、中学校とも連携しながら「みかたっこ」を利用し、お子さんにふさわしいところで高校卒業資格が取得できるように支援していきます。

1. アセスメント：客観的に評価・分析し、最適な対応策を導くこと



結果・成果

- 可能性を高めることができていた高校生の人数：2名
- 子ども向けの体験の場づくり：3ヶ所（農家さんでの畑仕事、福祉サービス事業所での体験活動、就労移行支援施設での体験）
- 発達症への理解啓発活動：5回
- 個別療育を担当できる専門性のある教員の育成：1名

※一部抜粋

ホームページ



科目	芸術文化		R4 課程	H25 課程	科目	地学基礎		R4 課程	H25 課程
	調べ学習	作品				調べ学習	作品		
種別	調べ学習	作品	体験・技術取得		調べ学習	作品	体験・技術取得		
タイトル	初めての作詞				「ASTRONEER」の惑星と実際の惑星を比較する				
画像等									
所属	みかた麴杜高等学院 鳥取・雲南学習センター				みかた麴杜高等学院 鳥取・雲南学習センター				
学籍番号	M210172				M210172				
氏名	[Redacted]				[Redacted]				

◀ みかた麴杜高等学院生の「マイプロジェクト」

(左)：初めての作詞

元々僕は音楽が好きで2022年頃から作曲をしています。今まで僕が作曲してきた曲にはボーカルが付いてなく、少し物足りなさを感じて歌詞やボーカルを付けたいなと前から思っていました。(中略)僕が作詞や作曲をしたいという気持ちになったのは、好きなアーティストの「魂音泉」さんなどの曲を聞き、歌詞の考察や曲の構成、ボーカルの技術の分析をして、想像力を膨らませることでやる気を出すことができたからです。そこで今回、作詞に挑戦してみることにしました。(1.はじめにより)

(右)：ゲーム「ASTRONEER」の惑星と実際の惑星を比較する

現実とASTRONEERを比較して、衛星が月以外にもたくさんあることや巨大ガス惑星、巨大氷惑星には固体の地表がなく大気でできていること、ASTRONEERの惑星や衛星には海や水がないのになぜ植物などが生えているかなど、気付いたことや疑問が増えました。今まではASTRONEERをなんとなくプレイしていた惑星の構造や惑星系などをしっかり考えたことがなかったので、今回調べたことによりゲームや宇宙、惑星に対する面白さや興味が前より持てるようになり良かったです。(6.まとめより)

02 地域で子育てができる環境づくり

mama's smile はぐ

事業期間 2024年～2025年度 助成額 400,000 円

事業の直接対象者

産前産後の母親

事業概要



ホームページ



結果・成果

- ・ママたちが気軽に情報交換できるLINEオープンチャットの登録者数：230名（38名増）
- ・LINE内で地域のお役立ち情報の共有件数：144件
- ・LINE内での相談件数：22件
- ・対面での勉強会開催：16回（参加者延57名）
- ・対面の個別相談：延べ26名
- ・参加者みんなで見合える子ども食堂の開催：11回（参加者延べ501名） ※一部抜粋

実施団体が直接対象者と対面やオンラインで繋がり、加えて母親同士も継続して繋がることで孤立を予防。啓発活動は、今後当事者になる学生、当事者を近くで支える祖父母世代などへ向けて幅広く実施。

- 【主な事業】
- ・妊娠中、産後の子育て中も気軽に相談ができるオンラインでの場づくり、直接の相談受入れ
 - ・地域の応援企業等と繋がる機会づくり
 - ・助産院と連携した産前産後の啓発活動
 - ・子ども食堂の運営、人との繋がりづくり

ご利用者様の声

私は、木次のはぐもぐ食堂さんを、次男と利用しています。石照庭園という、素晴らしいロケーションの中、美味しい食事、いろいろな親子さん、地域の方との出会いがあります。次男は、毎回はぐもぐ食堂で会える友達と何時間も遊びます。帰りたくなるくらいなのです。毎月、はぐもぐ食堂へ行くのが楽しみになり、いつの間にか私たち親子の居場所となっていたことに気づいたのです。今では、好きすぎて、ボランティアの方でお邪魔させてもらっています。

エピソードをご紹介くださったこちらのママさんは、ご自身の職場のある地域で子ども食堂をしたいと思っておられ、地域の方と一緒に2024年12月から子ども食堂を始められました。

03 地域と連携した食育事業

じねんにみそ

事業期間 2024年～2025年度 助成額 200,000 円

事業の直接対象者

雲南市内の小学生

事業概要



Instagram



結果・成果

- ・日本食文化の継承がされた開催数と人数：6回(学校3校)、141名
- ・食の大切さや豊かさを知るきっかけになる：(子どもたちの感想) おみそをつくるのも大変だけどおみそをつくるために使う大豆などを作るのも大変なのでありがたいと思いました。みそをせっかくつくったから、近所の人や、家族、学校の人などたくさんのひとにたべてもらいたい。等 ※一部抜粋

家庭環境に関係なく、子どもたちが地域の素材に触れ、日本食文化や伝統的な製法を体験できる機会の提供を地域住民や教員と連携しながら、学校で実施。

- 【主な事業】
- ・学校での手前味噌づくり
 - ・日本食文化に触れる体験に加えて、地元生産者を知る機会にする。また、手段を固定せず、子ども自身が持つアイデアを引き出し自発的に考えて行動ができるようサポート。
 - ・地元の生産者の方への説明、原料手配等

エピソード紹介

地域との連携という中で、今年度のワークショップ参加が叶わなかった方がおり、それを知った子どもたちが、お味噌のラベルに昨年の感謝や「また一緒につくろうね」など励ましのメッセージを添え、コーディネーターさんがお届けしてくれました。目には見えないつながりや地域の方を気にかけるその心が素敵だな。と感動しました。また、味噌作り後、親御さんから「学校から持ち帰ったお味噌で作ったお味噌汁は、おかわりをするくらい美味しいと言って飲んでいました。」「家族の会話も弾みました。」とご家庭の様子について、教えていただきました。

基金の設置運営事業

基金について /



島根県東部水災害支援基金

2021年7月12日に島根県東部で発生した水害に対して、一日も早い復旧を成し遂げられるよう弊財団が基金を設置し、123人の皆様より総額1,007,889円もの志金をお預かりしました。2021年の水災害以降、合計6事業に助成させていただきました。

中野地区防災スポレク事業

中野の里づくり委員会 助成額 100,761 円

事業概要

地区住民の防災力の向上や防災意識の醸成等を目的に、防災訓練、防災備品の設営・撤収、スポーツレクリエーションを実施

結果・成果

- ・参加者：地区住民 95名
- ・テント設営・片付けができる地域住民等：40名増加
- ・防災トイレ組み立て・片付けができる地域住民等：16名増加
- ・実際に体験をすることによる地域住民の意識の変化があった

今後の活動

- ・2025年度第3回防災スポレクを実施予定
- ・消防署や地域の消防団との実地訓練による連携強化
- ・気象アドバイザーの専門的な講習を実施予定 ※一部抜粋



団体コメント

大事な基金の一部を活用させていただきありがとうございました。今後の事業継続に向けてレベルアップをしながら実施して参ります。購入備品を引き続き活用させていただくことにより、地域住民の防災に関する意識の向上と取り組みの拡充を図ってまいります。

調査研究事業

孤立支援状態にある人を地域で支えるプロジェクト



2023年度には、実施した不登校児の親御さんや孤立状態にある人の直接支援をされている団体の方々との意見交換・ヒアリングをさせていただき、「働く」ことが持つ力の大きさを認識しました。

2024年度は、関係団体との定期的な意見交換の場作りや視察等を実施し、有償の中間的就労に繋がるための応募者を増やすことを目標に活動しました。



意見交換会の様子

連携団体

就労準備支援事業者、不登校・キャリア等支援事業者、居場所づくり団体等

活動内容

- ・常時、オンラインツールを活用した情報共有、意見交換、協力事業者開拓
- ・月1回の定期会議の開催
- ・短期・中間就労等多様な働き方を推進する事業者や企業等への訪問、意見交換（10事業）
- ・雲南市内外の団体との意見交換会、就労場所見学等

結果・成果

- ・有償の中間就労に繋がる：1名（延べ5回）
- ・就労以外の見学事業者等の紹介：13回
- ・協力事業者等の増加：11箇所

なお、この事業は2022年に89名の方のふるさと納税を通じたご寄付を原資にスタートしました。ご支援ご協力をいただき誠にありがとうございました。

HP発信・SNS発信・動画作成

結果

- ・課題の整理
- ・facebook
 - 211投稿
 - フォロワー2,132名
- ・Instagram
 - 205投稿
 - フォロワー952名
- ・その他：クラウドファンディング実施者や取り組む活動、地域課題等について32本の紹介動画を作成



紹介動画

投稿数の推移



成果

- ・SNSを通じて地域課題やその解決のプロジェクトを知ること
- ・動画の発信により、視聴者からの電話での問い合わせやプロジェクト実施者が主催するイベントへの参加に繋がる
- ・弊財団が制作したローカルマニフェストに興味を持ち、高校生が来訪



会計報告

貸借対照表

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,258,302	1,555,038	703,264
未収金	380,000	867,000	△ 487,000
仮払金	229	7,191	△ 6,962
流動資産合計	2,638,531	2,429,229	209,302
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2)特定資産			
特定資産	6,974,637	11,147,475	△ 4,172,838
特定資産合計	6,974,637	11,147,475	△ 4,172,838
固定資産合計	9,974,637	14,147,475	△ 4,172,838
資産合計	12,613,168	16,576,704	△ 3,963,536
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,063,111	680,225	382,886
預り金	40,315	158,036	△ 117,721
未払法人税等	231,200	81,000	150,200
流動負債合計	1,334,626	919,261	415,365
負債合計	1,334,626	919,261	415,365
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
民間助成金	740,591	1,782,961	△ 1,042,370
寄付金	9,664,126	12,364,514	△ 2,700,388
指定正味財産合計	10,404,717	14,147,475	△ 3,742,758
2. 一般正味財産			
一般正味財産	873,825	1,509,968	△ 636,143
正味財産合計	11,278,542	15,657,443	△ 4,378,901
負債及び正味財産合計	12,613,168	16,576,704	△ 3,963,536

Information

毎月開催中！ うんコミュカフェ

ちょっとした悩みや気になることがある方、地域で活動を起こしたいけど何から始めていいかわからない方、雲南で活動している団体とつながりたい方など、どなたでも気軽にふらっと寄れて情報を得られる場です！

開催日程や報告は弊財団のFacebookとInstagramにて発信中です。



▽ 詳細はこちら ▽



うなんコミュニティ財団

応援基金 募集中

弊財団は皆様からのご寄付を元に運営させていただいております。市内外の資金をはじめとした資源循環に必要な仕組みである「うなんコミュニティ財団」運営へのご支援ご協力を何卒よろしくお願いいたします。
※弊財団へ寄付した場合、税額控除方式または所得控除方式で確定申告をすることで税制上の優遇処置を受けることができます。詳しくは弊財団のホームページをご覧ください。

ご寄付の方法

下記、A～Dの方法にてご寄付をお願いいたします。

A. 現金でのご寄付

雲南市木次町木次29番地三日市ラボ内事務局までお持ちください。

B. 現金払込でのご寄付

以下の口座をお願い致します。

ゆうちょ銀行振替口座

・口座記号番号 01340-5-111708

・口座名 公益財団法人うなんコミュニティ財団

C. 銀行振込でのご寄付

以下の口座をお願いいたします。

山陰合同銀行 雲南支店 普通 | 口座番号 4502554

・口座名 公益財団法人うなんコミュニティ財団

D. クレジットカードでのご寄付

左のQRコード（決済サイト）よりお手続きをお願いします。

※決済手数料3.6%を除いた額が寄付されます。



遺贈寄付について

遺贈寄付とは遺言書を作成し、遺産の全部または一部を、団体や個人に無償で譲与することです。実際に遺贈寄付をされる際には、司法書士や行政書士等の専門家の方とともに、寄付者さまの思いやお考えに合うよう話し合いを重ねていきます。関心のある方はぜひご相談ください。

不動産寄付について

不動産の利活用については、ご寄付（予定を含む）の不動産がある地域の方々（自主組織、自治会等）と、活用について意見交換をしながら検討をしていきます。なお、荒廃が進んでいる・利活用が困難な不動産はご寄付をお断りさせていただく場合がございますのでご了承ください。地域での不動産活用をご希望される方は、ぜひご相談ください。